

令和2年度愛知県外来種調査検討会議事概要

1 座長、座長代理の指名

座長は、互選により芹沢委員が選出された。

2 議事1 ブルーデータブックあいち2012(素案)について

- ・ブルーデータブックあいち2021作成スケジュール及びブルーデータブックあいち2021原稿について説明した。(事務局)
- ・表紙写真の説明が必要ではないか。特にヒガタアシの駆除活動は説明がないと分からない。(委員)
- ・2012年版では前半をハンドブック、後半をデータブックとして分けて作成し、啓発パートはハンドブック部分に掲載している。今回は、外来種問題への分かりやすい入口として啓発パートをデータブック部分の冒頭に入れる形で案を作成したが、必ずしも一体とする必要はないと思う。ご意見をいただきたい。(事務局)
- ・できれば啓発パートとデータブックは別にしていただきたい。(委員)
- ・データブックとは別のパンフレットとして作成するのはよいと思う。(委員)
- ・生態系ネットワーク協議会が、県の作成したモニタリングハンドブックを基にモニタリング調査を行っているが、それとリンクさせて利用できるものを作るとよいのでは。(委員)
- ・県には、啓発パートとデータブック部分は分ける方向で検討するというようお願いしたい。(委員)
- ・今回の外来種リストは2012年版と異なり、「愛知県外来種リスト」(県内に定着している外来種)と「愛知県注意種リスト」(県内では未定着だが、今後定着のおそれがあり注意が必要な外来種)に分けて掲載する。なお、植物の注意種リストは該当なしとする。(事務局)
- ・維管束植物では、ある地域で個人がシダ園を作っており、そこから孢子が飛散して広がったと思われるシダ植物が近年確認されている。例えばアミシダが県内で初めて確認されたが、在来か外来か判断ができない。その地域では他にも疑問が残るシダが確認されている。本県の生物多様性調査に悪影響を及ぼしているので、ブックに記載したいと思う。(委員)
- ・既に手遅れの状態、さらに広がるおそれがある。シダ園には日本にはない種もあり、同定が困難なものも混在している。(委員)
- ・以前から似たような事例はあり、ハマオモトは本来なら自然に海から流れ着くものもあると思われるが、既に県内の海岸に多く植栽されているため、今後自然分布が出てきても植栽との判別がつかない。(委員)
- ・付録に記載されているホタルについて、餌のカワニナと共に他産地由来の幼虫を放流しているとあるが、カワニナとしては付録に記載していない。琵琶湖産のものは定着していないが、他産地のものは定着していないと、言い切ることができない。おそらく放流されていると思われるが、DNAを調べても分からないと思う。(委員)
- ・東北大学で30年程前に、ホタルの移入に関しての全国調査として、アイソザイムによる全

国のカワニナの系統解析が行われていたと思う。(委員)

- ・おそらくホタルに関係して出された論文で、貝の専門家の目に触れる機会が少なかったのではないか。ホタルの放流に関する記載があっても、カワニナの方は断定できないので記載しないというのは仕方がないと思う。ホタルの方は善行だと思って放流している人が多く、深刻な問題であり、もう少し詳しく記載していただきたい。(委員)
- ・観光名所づくりとして新しく池を作っている場合が多いため、より深刻な問題となっている。(委員)
- ・植物では、シラタマホシクサのような種をどの程度記載するか考えたい。(委員)
- ・移植が多く行われているので、ぜひ記載していただきたい。(委員)
- ・外来か在来か分からないものも多く、それは仕方がないが、全体の概説の部分で何らかの記載をしたい。完全なものはなかなかできないので、順次更新していくことになる。(委員)
- ・ツマジロクサヨトウについては、厳密にいうと外来種ではなく、遠距離を飛来してくる。人為的に移入されたかという点については確認されていないが、非常に重要な農業害虫ということで掲載した。(事務局)
- ・本種は、2019年以降、中国大陸から飛来するようになり、現在、北海道まで確認されるようになった。非常に飛来能力の高い害虫で、愛知県でも今年、飼料用トウモロコシに非常に大きな被害が出ている。人為的に移入されたものではないため、厳密に言う今回のブルーデータブックの掲載対象外になると思うが、今後、毎年のように愛知県に飛来すると思われるので、是非ここで扱っていただきたい。(委員)
- ・本来、日本のファウナに入っていないため、外来種といえば外来種だが、人為的な移入種でないことは明らかである。しかし、専門の分野の方が重要だという意見であれば、掲載して問題ないと思う。(委員)
- ・日本でコメを植えるようになったため、国外からスズメが飛んできたという意見もある。鳥類では、自然帰化は移入種に含めないという方針があり、その辺りははっきりしておいた方がよいと思う。(委員)
- ・植物でも稲作文明と同時に日本に入ってきた水田雑草が多いが、それらは在来種扱いされている。基本的に外来種は、江戸時代中期以降、主に明治以降に入ってきたものとしている。その意味では、スズメは外来種に入らないという理解でよいかと思う。(委員)
- ・ドバトは奈良時代に入ってきているが、人為的に移入されたので外来種としている。スズメは自ら飛んできたので外来種としていない。外来種の定義について、せめて動物だけでも合わせておいた方がよいのでは。(委員)
- ・明治時代以降に入ってきたものを外来種とするというのは、外来生物法の文言に入っていないが、実際にはそうしようということで合意していること。本来は原則論を通した方がよいと思う。ツマジロクサヨトウは、ある環境の下で増えすぎるため注意喚起すべき動物、今のイノシシやシカと同じような扱いにすべきかと思う。外来種とは別枠の対策が必要な野生生物という位置付けにしないとイケないのでは。(委員)
- ・このような種は、モンキアゲハなどのように南から入ってきて次第に北に拡大していく種が

多いが、本種はどうか。(委員)

- ・元々はアフリカで広がった種が徐々に広がってきた。熱い所から飛来するので、本土では越冬できない。毎年飛来してくる。(委員)
- ・環境省は外来生物という言葉を経済で使っているが、これは「外国からやってきた生物」とされている。ただ、法律の用語定義に厳密に従う必要はないと思う。(委員)
- ・本原稿案では、ツマジロクサヨトウは厳密には外来種ではないということで、外来種リストではなく注意種リストに掲載している。事務局としては、注意種リストの中でも農業被害の観点から非常に重要で特殊な種ということで解説文を掲載し、特記事項として「厳密にいえば外来種リストの対象外になる」と明記したいと考えている。(事務局)
- ・外来種の問題は非常に範囲が広く、一筋縄に整理できないことが多々あると思う。そうなるのと、それぞれの専門分野の方、農業害虫は農業害虫の担当の方が判断した結果に従うべきかと思う。統一性に欠けることになるが、農業に対する影響が深刻であるため、問題があることを明記した上で掲載するという方針でお願いしたい。(委員)
- ・国外から飛来するものをどのように扱うかは、鳥類が最も影響が大きい。通常の外來種との相違や、掲載した理由を明記した上で掲載していただきたい。(委員)
- ・知多半島で野犬からエキノコックスが検出された。非常に深刻な問題があり、エキノコックス自体が移入種でもあるが、今年に入ってから継続的に確認されており、県の衛生研究所で月例報告を出している位に問題になっている。特に問題なのは、キツネに移った場合、食物循環ができてしまうと愛知県はそのエキノコックスの汚染地帯になる可能性もある。愛知県では、ここ数年、本州で唯一継続的にエキノコックスの定着のおそれがあるため、移入種問題の一例として全体の概説に記載していただきたい。(委員)
- ・県内のキツネでは、今の所エキノコックスは出ていないか。(委員)
- ・キツネは調べていないと思う。野生動物も一応は調べているが、対象の数が非常に少ない。理由としては、管轄が保健所であり野生動物の捕獲許可が自分の所では出せないことや、あの辺りでキツネを獲るのが難しいということがあるのではないか。感染経路であるノネズミ類に入っているか否かの方が問題になる。今では DNA 調査で感染の有無が分かるらしいので、ノネズミ類の大規模な調査を是非進めていただきたい。(委員)

3 議事2 条例に基づき公表する移入種について

- ・条例公表種タカネマツムシソウの取り扱いについて説明した。(事務局)
- ・条例公表種の選定対象のうち、「県内在来種との分類上の区別ができない種については、原則として選定対象外とする。」に該当するため、タカネマツムシソウを条例公表種から除外したい。(事務局)
- ・条例公表種としたタカネマツムシソウについて、愛知県のものとは一応形態的な識別は可能。当時、高原に生育するものをタカネマツムシソウ高原型とする人もいたため、タカネマツムシソウとしたが、DNA 解析の最新の方法を使って調べてみたところ、誤りであることが判明した。このため、条例公表種から除外するというようお願いしたい。(委員)

4 議事3 その他

- ・愛知県の外来種対策の取り組みについて説明した。(事務局)
- ・ヒガタアシについて、愛知県ではほぼ根絶に追い込んだが、まだ少し残っている。愛知県はかなり成功した例だと思うが、熊本県はこれから本格的な対応となり、新たに山口県でも確認された。ヒアリも含め、これらの外来種は、本当は既に侵入しているかもしれないが、注意する人がいないと見えてこないということがあった。その点では、外来種は非常に怖いものであるということや、我々専門家の知識も十分ではないということもブルーデータブックの概説に記載したい。(委員)